

中部圏建設広報ネットワーク協

初の「建設若者塾」

連帯感通じ定着率向上へ

東海4県の建設業協会と日本建設業連合会中部支部で構成する中部圏建設広報ネットワーク協議会(会長・山川伸次愛知県建設業協会専務理事)は、若い建設技能者を対象とする初の「建設若者塾」を10月3日から4日にかけて1泊2日で開くことにした。建設業の人手不足と就業者の高齢化が深刻化する中、若者の連帯感や仲間意識の形成を通じて仕事への定着率を向上させ、さらに入職者を増やすのが狙いだ。

愛知・岐阜・三重・静岡 港区の邦和セミナープラ
から各県10人ずつ計40人が ザ。東海工業専門学校教務
参加する。対象となるのは 部長の野村種明氏が、建設
入職3年以内で20歳以上の 業で働くことの社会的意義
建設技能者。現在、各 を講義する。また、建
県の建設業協会と建設 設業で実際にあった、
産業団体連合会、建設 心が温まるような実話
産業専門団体中部地区 を知り、自らのエピン
連合会を通じて参加者 ードをまとめる。さら
を募っている。ハタコ に、技能向上のための
ンサルタント(名古屋 計画を作成する。交流
市中村区)が研修全体 会も行う。
をコーディネートす
る。

研修では、建設業で
働くことの社会的意義
ややりがいをはじめ、
技能向上のためにやる
べきことを理解する。

また、入職希望者を引
き寄せる能力を身に付
ける。研修は講義やグ
ループディスカッショ
ンにより進める。実務
経験10〜20年のベテラン技
能者5〜7人が参加し、ア
ドバイザーを務める。

1日目の会場は名古屋市

10月3～4日に開催

2日目は、現場見学
会を行い、「公共事業
における自らの役割」
をテーマにグループデ
ィスカッションを行
う。

同協議会の事務局を
務める国土交通省中部
地方整備局建設部の高
鍋誠治建設産業調整官
は「若者の建設業への
入職者が減少し、同じ
年齢の同僚が少なくなって
いる。県域を超えて交流し、
仲間をつくる意義は大き
い」と話している。